



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ROTOBO

2025年(令和7年)6月15日号 No.1993

目次

■ ロシアの新車販売最新動向	1
■ 統計速報	11
2025年1～4月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績／11	
2025年1～4月の日ロ貿易／12	
■ エトセトラ	15
情報提供セミナー「現在の状況下におけるロシアビジネスと戦略産業規制」／15	
■ トピックス	15
JICA、ウクライナ向け円借款調印／15	
ロシア中銀、20%に利下げ／15	
ブックオフ、カザフスタンの合併企業の持分を譲渡／15	

ロシアの新車販売最新動向

はじめに

ロシアの自動車市場の調査会社、AVTOSTATが2024年と2025年1～3月のロシアの乗用車販売データを発表したのので、本号では早速このデータを図表にまとめてお届けする。

概況

2024年の販売動向 昨年1年間にロシア国内で販売された新車の台数は150万台あまりだった。西側諸国による経済制裁にもかかわらず、高い経済成長が続いていること、中国の自動車メーカーの現地進出が加速し、販売網の整備が進んだことなどから、前年を48%上回り、軍事侵攻前の水準まで回復した。新車販売は2021年の152万台から侵攻が始まった2022年は半分以下の63万台に落ち込んだ。しかし、2023年には106万台まで回復していた。

2022年は、西側の自動車メーカーの現地生産や輸入停止、生産に必要な部品の調達困難で販売台数が大幅に落ち込んだ。しかし、2023年以降、その影響が緩和され、撤退した西側メーカーに代わって中国の自動車メーカーが販売を本格化させたことなどで、供給不安が解消し、回復基調が鮮明となった。経済成長率が4.3%伸びるなど、ロシア経済の力強い成長が続いていることも追い風となった。

新車販売の動きを振り返ると、1月と2月に季節的要因から10万台を下回ったあと、3月には14万6,000台に一気に跳ね上がり、侵攻以降の最高を記録する。その後も12万台から13万台をキープし、ロシア市場の回復ぶりが、注目を集めるようになる。7月以降、廃車税率引き上げに伴う値上